

令和 3 年 7 月 1 日

## 令和 2 年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
七ヶ浜町立松ヶ浜小学校	七ヶ浜町教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の公表ウェブサイト名・URL 等
七ヶ浜町立 亦楽小学校	七ヶ浜町立亦楽小学校HP・英語コミュニケーション <a href="http://www.joint5.jp/ekiraku/ekirak01/English_com.html">www.joint5.jp/ekiraku/ekirak01/English_com.html</a>	左に同じ
七ヶ浜町立 松ヶ浜小学校	七ヶ浜町立松ヶ浜小学校HP・英語コミュニケーション <a href="http://www.joint5.jp/ekiraku/ekirak01/English_com.html">www.joint5.jp/ekiraku/ekirak01/English_com.html</a>	左に同じ
七ヶ浜町立 汐見小学校	七ヶ浜町立汐見小学校HP・英語コミュニケーション <a href="http://www.joint5.jp/ekiraku/ekirak01/English_com.html">www.joint5.jp/ekiraku/ekirak01/English_com.html</a>	左に同じ
E L E C 英語教育研究所	E L E C 英語教育研究所HP <a href="http://www.elec.or.jp">www.elec.or.jp</a>	左に同じ
E L E C 英語教育研究所	E L E C 英語教育賞授与式・特別講演 <a href="https://youtu.be/pEbT-X5psSZ0">https://youtu.be/pEbT-X5psSZ0</a>	左に同じ

※町内 3 校が共通のカリキュラムで行う英語コミュニケーション科に関する評価の公表は、3 校同一報告書として各校HPから亦楽小の該当ページへバナーからリンクさせている。

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

町の財産である児童をグローバル人材として育成するため、英語を通してコミュニケーション力を育成することが必須と考えた。また、将来にわたり役立つ本物のコミュニケーション力を培うため、小学校 1 年生から 6 年生まで、ALT を T1、担任を T2 として授業を行い、ネイティブスピーカーの生きた英語を存分に聞かせる聞く活動と活発な発話による話す活動を繰り返し学習する。

そのため、生活科の一部、総合的な学習の時間の一部、外国語活動及び外国語に替えて「英語コミュニケーション科」を新設し、1 年生 3 4 時間、2 年生 3 5 時間、中学年 5 0 時間、高学年 8 5 時間の教育課程を編成した。

## (2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

七ヶ浜町は、明治時代から町内の高山地区外国人避暑地に滞在する外国人との交流や、姉妹都市

である米国プリマス町との青少年国際交流事業により諸外国の文化に親しんできた伝統がある。その特色を生かし、東日本大震災で甚大な被害を受けた本町の子供達に、教育力による心の復興と、グローバル社会を生き抜く力をはぐくむため、初等教育段階から英語を通したコミュニケーション力を身に付けさせることが必要と考えた。

(3) 特例の適用開始日

平成29年4月1日

平成30年4月1日 変更

令和 2年4月1日 変更

(4) 取組の期間

平成9年3月31日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

町内3小学校と2中学校で「英語コミュニケーション推進委員会」を組織し、授業作り、成果と課題の共有、情報交換等を行う協働体制を整えている。推進委員は各校でのカリキュラムマネジメントの中心となり、指導者及びALTとの効果的連携を進めるとともに、各校間の調整を図る役割を果たしている。

令和2年度は、予定していた県内への公開を、新型コロナウイルス感染防止のため中止せざるを得なかったが、学校間公開（通算第IV期）を実施し、町内教員の研修は継続している。

ELEC英語教育協議会主催 文部科学省後援 2020年度ELEC英語教育賞の文部科学大臣賞を受賞した。同協議会のホームページで取組の紹介、及びYoutubeチャンネルで授与式と特別講演の様子が全国に公開されている。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

・保護者に対しては、学習参観、学校だより等の文書、ホームページ等を活用して随時情報を提供

している。

- ・地域住民に対しては、町の広報誌の特集記事での発信に加え、学校だより等での情報提供を行っている。
- ・受け入れ準備はしていたものの、コロナ禍のため直接の視察参観は実施できなかった。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

英語コミュニケーション科においては、「明るく、楽しく、面白く」を教育課程の編成及び指導上のアプローチの土台としている。その上で、積極的なコミュニケーション活動を展開することにより、学校が教育目標として目指している「よく考え、進んで学ぶ」児童の育成の具現化に深く関わると考える。また、必然性のあるコミュニケーションの経験を積むことによって、他者や社会との積極的な関わり方を学ぶ資質や能力を高めることができると考える。

E L E C英語教育協議会主催 文部科学省後援 2020年度E L E C英語教育賞の文部科学大臣賞を受賞した。同協議会のホームページで取組の紹介、及びYoutubeチャンネルで授与式と特別講演の様子が全国に公開されている。

##### 2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

初等教育においては、生涯にわたり学習し続ける基盤を作るため、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、その過程において思考力、判断力、表現力等を身に付けるために必要な学習に取り組む態度を養うことが重要である。本特例における取組は児童が将来出会う多様な社会において必要なコミュニケーション力を身に付けるとする学校教育の目標に合致するものと考えられる。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

これまでの取組から、児童の英語の「聞く（聴く）能力」や「話す能力」の向上が見られる。一方で、さらにそれらの能力を高めたいという思いや、「書く能力」「読む能力」を身に付けたいという意欲の高まりが見られ、英語コミュニケーションの経験値に応じた取組が重要である。

本特例では、児童の実態に合わせた授業作りを日常的に行っていることから、いわゆる4技能5領域をバランス良く伸ばす取組を進めている。さらに、中学校英語科への学びの意欲の継続と授業作りの改善のため、これまで同様、小学校3校と中学校2校を合わせた協働での授業参観と検討会を行っていくこととしている。